

山口県病院協会 会報

2020 7月号 No.68

- 発行日 令和2年7月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



社会医療法人いち樹会 尾中病院

〒755-0032

宇部市寿町一丁目3番28号

電 話 0836-31-2133

F A X 0836-32-9907

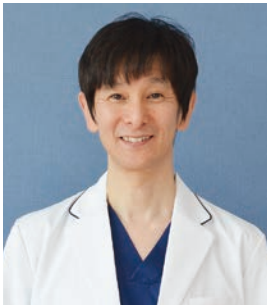
U R L : <http://www.onaka.or.jp>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
令和2年度定時総会	3 ページ
優良職員表彰 受賞者一覧	3～5 ページ
協会役員コーナー	6～7 ページ
病院スタッフコーナー	8 ページ
諸会議報告	9 ページ
トピックスコーナー	9 ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



社会医療法人いち樹会
尾中病院
理事長・病院長

尾中 宇蘭

私どもの病院は、昭和21年に私の祖父であり、初代理事長でもある尾中正春が開いた診療所を礎としております。昭和28年に当初34床で病院を開設し、以後改組を繰り返しながら現在に至ります。

私は平成17年に理事長職を拝命いたしました。地域の方々のご支援もいただき、平成22年に山口県で2番目の社会医療法人として認可をいただきました。また本年3月には、念願であった病院の移転新築を行うことができました。延床面積は約8,000㎡と旧病院の約1.5倍となり、MRI導入、健診センターの新設など、ご不便をおかけしていた部分をわずかながら解消できました。

現在当院は一般14床、地域包括ケア46床、療養型50床で計110床のケアミックス病院として運営しており、介護医療院60床を併設しています。県内でも介護医療院の開設が増えていますが、当院は山口県内で初の新築の介護医療院となりました。入居者の尊厳やプライバシーに配慮した生活の場としての機能と、医療提供機能が両立されるように設計や動線を工夫しています。

当院が属している宇部・小野田医療圏は山口大学病院に加え、宇部興産中央病院、山口労災病院という高度急性期病院に支えられています。また、様々な専門性をもつ診療所も多数開業されており、その中で私たちに課せられた使命は医療機関、福祉施設、地域の方々などをハブとして繋ぐことだと考えており、新病院移転に併せて法人理念と法人名の刷新を行いました。

病める方やそのご家族だけでなく、地域にお住まいの方々、それを支える医療・介護関係者、行政に携わるの方々、そういったすべての『あなた』とともに、病を癒し支えること、より長く健康を保つこと、自分らしい最期を迎えることなど、多様な『生きる』に真剣に向き合いとことん考える。そういう思いを込めて、「あなたとずっと、『生きる』を考える」、という新しい理念を定めました。法人名は、地域に根を張り、医療だけでなく、介護やリハビリ、健診などの枝を伸ばし、地域の方々がほっと一息つける木陰を作る木を育てたいという思いから、いち樹会と改めました。

新しい時代に、新たなスタートを切ることとなりましたが、これからも地域の方々に必要とされるにはどうあるべきかを考えながら努力し続ける所存でございます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

<病院の現状>

1) 概要

名 称	社会医療法人いち樹会 尾中病院
開 設 者	尾中 宇蘭
所 在 地	山口県宇部市寿町一丁目3番28号
T E L	0836-31-2133
F A X	0836-32-9907
E - m a i l	soumu@onaka.or.jp
U R L	http://www.onaka.or.jp
病 床 数	病院110床 一般病床60床（含 地域包括ケア病床46床） 療養病床50床
介護医療院	60床、介護施設 60床
診 療 科	内科、循環器内科、呼吸器内科、胃腸内科、外科、 整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、皮膚科、放射線科

2) 沿革

昭和21年12月	宇部市常盤町に尾中診療所（開設者尾中正春）を開設
昭和29年12月	医療法人尾中病院を設立（許可病床61床）
昭和40年2月	救急告示病院指定（許可病床96床）
昭和41年2月	特定医療法人に改組
平成10年6月	管理棟移転による病床数変更（許可病床180床）

平成12年4月	介護事業開始（介護療養型医療施設60床、居宅介護支援事業）
平成15年6月	新棟（手術室・浴室・会議室等）完成
平成22年4月	社会医療法人 認可
平成30年10月	一般病床60床の内、42床まで地域包括ケア病床へ転換
令和1年11月	法人名を 社会医療法人いち樹会、病院名を いち樹会尾中病院へ名称変更
令和2年2月	新病院竣工（宇部市寿町1丁目3番28号）
令和2年3月	新築移転開院
令和2年3月	病床数変更（療養病床60床から50床へ）
令和2年3月	一般病床60床の内、46床まで地域包括ケア病床へ転換（許可病床数110床）
令和2年3月	介護医療型医療施設を介護医療院に転換（60床）

3) 特徴

当院は、宇部市中心市街地に位置しており、近くには宇部市役所、山口大学付属病院、宇部市立図書館等の、人々が集まり、賑わいのある地域内にあります。地域包括ケアシステムの中で、高次機能病院や診療所、福祉施設などをつなぐハブ機能を果たす地域密着型のケアミックス病院です。昭和21年開院の尾中診療所から、時代と共に拡張を繰り返して来ましたが、長年の問題であった病院の老朽化と耐震化を解消すべく、令和2年3月に新病院へ移転しました。新病院では病院内施設として介護医療院を開設しました。

令和2年度 定時総会開催

日時 令和2年5月20日（水）15：30～16：40

場所 山口市小郡黄金町1-1
山口グランドホテル



開 会

令和2年度の総会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、規模を大幅に縮小し、出席者間の空間を十分に取っての開催とした。

天津昇次事務局長による開会宣言がなされ、三浦修会長は挨拶で、各種会議など情報交換の場が少なくなる中、一層の協力が必要であると述べた。

総会成立宣言

審議に先立ち、三浦議長より、総会出席者は当協会の会員総数130名に対して120名（うち委任状107名）であり、総会が有効に成立する旨宣言された。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、三田尻病院神徳理事長ならびに玉木病院玉木病院長を選出した。

議案審議

○議案第1号

「令和元年度一般社団法人山口県病院協会事業報告及び収支決算の承認について」

天津事務局長より、令和元年度に実施した各種事業内容について説明と報告がなされた。

さらに、令和元年度における当協会の収支決算状況について収支決算書に基づき説明と報告があり、続いて尾中監事より、令和元年度の事業並びに決算関係資料について城甲監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告が行われ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

報告事項

議案の審議終了後、天津事務局長より令和2年度事業計画及び収支予算について詳細に説明が行われた。

閉 会

三浦議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ、議事の進行への協力に対する感謝の意を述べ閉会が宣言された。

受賞おめでとうございます

令和2年度 病院優良職員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	病 棟 師 長	武 重 元 子
〃	サービスセンター長	田 中 公 志
岩国市医療センター医師会病院	放 射 線 技 師	林 達 夫
〃	総 務 課 職 員	福 田 英 雄
宇 部 第 一 病 院	介 護 士	野 村 奈 津 恵
〃	売 店 事 務	松 永 恵 子
宇 部 仁 心 会 病 院	看 護 師 長	藤 原 美 和
宇部西リハビリテーション病院	師 長	開 地 久 美 子
〃	介 護 福 祉 士	木 村 悦 子
宇部リハビリテーション病院	看 護 主 任	松 本 淳 子
〃	看 護 師 長	山 崎 宏 美

病 院 名	役 職	姓 名
大 田 病 院	准 看 護 師	森 弘 子
〃	事 務 員	山 本 和 香 子
岡 田 病 院	看 護 師	中 村 希 久 江 子
〃	看 護 師	河 野 喜 圭 似 子
小 郡 第 一 総 合 病 院	准 看 護 師	宮 本 古 田 恵 美 子
〃	准 看 護 補 助 者	佐 下 田 保 純 真 子
小 郡 ま き は ら 病 院	准 看 護 師	久 松 徹 美 子
〃	看 護 主 任	小 桑 原 真 良 香 子
小 野 田 赤 十 字 病 院	会 計 課 長 補 佐	村 上 本 重 弘 明 英 美 知 子
〃	看 護 師 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
片 倉 病 院	栄 養 士 長	栗 大 瀬 良 田 弘 清 美 子
〃	病 棟 師 長	原 網 本 道 野 元 江 本 岡 玉 口 折 島 上 行 富 本 村 本 安 削 玉 場
鹿 野 博 愛 病 院	医 事 課 職 員	廣 貞 佐 藤 村 林 成 田 良 田 本 道 野 元 江 本 岡 玉 口 折 島 上 行 富 本 村 本 安 削 玉 場
吉 南 病 院	病 棟 看 護 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	栄 養 士	吉 小 林 成 田 留 美 子
玖 珂 中 央 病 院	看 護 補 助 者	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
厚 南 セ ン ト ヒ ル 病 院	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
光 風 園 病 院	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	病 棟 科 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
高 嶺 病 院	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	調 理 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
斎 木 病 院	調 理 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
坂 本 病 院	看 護 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 補 助 者	吉 小 林 成 田 留 美 子
佐 々 木 外 科 病 院	訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン 管 理 者	吉 小 林 成 田 留 美 子
サ ン ポ プ ラ 病 院	准 看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
重 本 病 院	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 課 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
柴 田 病 院	看 護 部 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
下 関 市 立 豊 田 中 央 病 院	薬 剂 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
周 南 記 念 病 院	臨 床 工 学 科 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
周 南 市 立 新 南 陽 市 民 病 院	看 護 部 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
周 南 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	准 看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	准 看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子
セ ン ト ヒ ル 病 院	栄 養 課 主 任	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 師 長	吉 小 林 成 田 留 美 子
桑 陽 病 院	看 護 補 助 者	吉 小 林 成 田 留 美 子
〃	看 護 師	吉 小 林 成 田 留 美 子

病 院 名	役 職	姓 名
田代台病院	設備用度課長	藤井 馨
都志見病院	看護師長	松本部 加奈子
徳山医師会病院	看護師長	池部 敦子
徳山静養院	副看護部長	岡 かり
徳山リハビリテーション病院	看護補助者	作間 真由美
仁保病院	看護師長	福本 加代子
光中中央病院	看護師長	生田 和子
福永病院	調理師	松井 瑞江子
扶老会病院	看護師	阿武 美代子
防府病院	看護師	清岡 栄子
防府保健養院	作業療法士	寺谷 剛彦
防府リハビリテーション病院	健診センター主査	山重 俊利
松本外科病院	看護主任	藤井 史朗
三田尻病院	看護補助者	片山 万里子
みちがみ病院	看護補助者	松田 多鶴子
安岡病院	薬局助手	浦木 さつき
柳井病院	薬局助手	村田 好枝
山口県済生会下関総合病院	看護師	坂下 基子
山口大学医学部附属病院	看護補助者	伊藤 ヒロタ
山口リハビリテーション病院	看護補助者	末廣 百順
湯野温泉病院	事務員	鶴岡 薫
	看護主任	濱松 千穂
	看護主任	三浦 幸恵
	看護部長	河本 和代
	看護部副部長	中大 美賀子
	看護補助者	中里 恵子
	看護師長	曾田 由美
	看護師長	三浦 いづみ
	看護師長	重枝 一雄
	訪問看護ステーション管理者	山下 順子
	健康運動実践指導者	大浦 由美
	看護師	大中 崇裕
	看護助手	中重 安美子
		村 洋子

受賞者人数 91名

協会役員コーナー

COVID-19 序章



社会医療法人同仁会
周南記念病院

病院長 橋谷田 博

2019年、中国武漢で新型肺炎が発生したらしいとのニュースが報じられ、他国の出来事と眺めていましたが、2020年になり、このCOVID-19は日本に上陸し、またたくまに世界に拡散し、WHOはパンデミック宣言をしました。各国は国境を閉鎖し、2020年4月になると日本では緊急事態宣言が発せられ、他県への移動が制限される事態になりました。経済活動も制限され、第2次世界大戦のきっかけとなった世界大恐慌をものぐ大不況が始まりつつあります。力のない会社は倒産し、世の中に失業者があふれ、医療崩壊が起きるのではないかといわれるようになりました。東京新聞のインタビューに全日本病院協会 猪口雄二会長が「2020年6月には多くの病院が資金ショートしてしまう」と答える記事がありました。ここ山口でもCOVID-19感染者が何人も確認されるようになりました。

社会医療法人同仁会周南記念病院のルーツは終戦後6年目の1951年に設立された徳山記念病院と続いて設立された下松記念病院です。この2つの病院を合併し、それまで市民病院をもたなかった下松市の総合健康福祉構想の中核病院として、下松市民の大きな期待の中、2000年に設立されたのが周南記念病院です。2009年には社会医療法人を取得し現在に至っています。消化器内科、神経内科、呼吸器内科、リウマチ内科、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科、脳外科、整形外科、麻酔科、泌尿器科、耳鼻科を擁し、地域医療に貢献しています。また年間2200台の救急車を受け入れ救急医療にも貢献しています。

ところが2020年4月を境に日本の医療、地域医療の形が様変わりしています。周南記念病院では出入口は正面玄関以外すべて封鎖し、入場者は患者様であるかどうかに関わらず、すべて体温チェック・問診を行いCOVID-19の疑いがあれば、まず保健所に連絡してもらいその指示に従っていただいています。さらに発熱、呼吸器症状のある患者様には動線を別にした発熱外来を設けました。入院患者様への面会は禁止です。従業員にはマスク着用、手指衛生の徹底。いたるところにアルコール消毒液、超酸性水を配置しています。病院敷地外の一角には帰国者接触者外来を設けました。去年まではなかった世界になりました。

救急搬送患者様の減少、外来患者様の減少、予定手術の減少、予定検査の減少、病床占床率の減少等々、病院経営は大変苦しい局面にあります。そのような中、周南記念病院職員は自分がCOVID-19に感染するのではないかと恐怖、院内感染が発生するのではないかと恐怖と戦いながら頑張っています。

COVID-19が収束に向かっても、第2波、第3波がやってくるといわれています。落ち込んだ世界経済、日本経済が立ち直るのには時間がかかりそうです。日本の医療行政はこれまでとは異なる形になるかもしれません。周南記念病院はこの嵐の中まず生き残り、そして嵐が過ぎ去った後、まだ見ぬ世界で生き抜き、周南地域、下松市において地域医療の役割を果たすべく努力して参ります。

協会役員コーナー

新しい世界に向けて



医療法人愛の会
光風園病院

病院長 木下 祐介

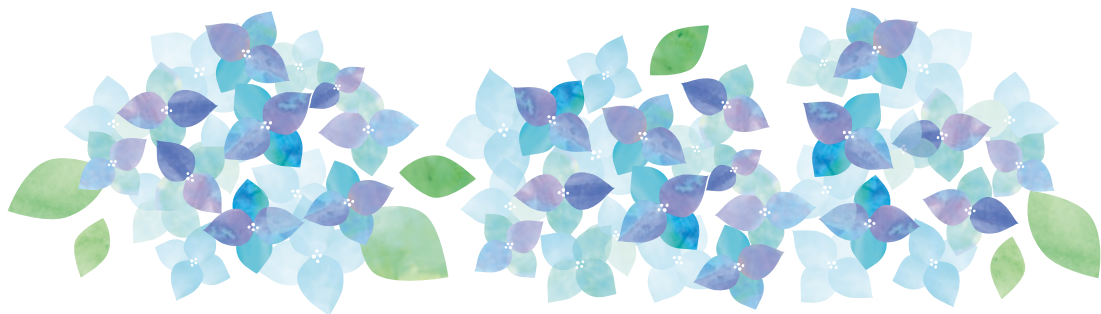
新しい年号となり初めての新年を迎え夏には東京オリンピック開催と、賑やかな1年になるはずでした。原稿を執筆している5月末の時点で緊急事態宣言が解除されましたが、気を抜けない状況が続いています。当院でも、面会制限を始めとした外部からの感染防止対策や、業務の変更、不足する物資への対応など、様々な取り組みを行っています。患者さんやご家族、職員、行政、医師会、病院団体、地域社会、業者等の協力や支援のおかげで、1人の感染者も出さずに何とか第1波を乗り越えられそうです。今のうちに、第2波、第3波に向けて体制を整えなければなりません。

さて、本来今頃は、診療報酬改定への対応、新入職員の教育など、目まぐるしい日々が続いたはずですが、新型コロナウイルス感染症への対応の一方で、これらの日常業務を疎かにする事もできません。また、これから梅雨の時期に入ります。豪雨等の自然災害への対策も進めていかなければならず、課題は山積しています。

一方で当院では、新型コロナウイルス感染症対策を通じて、病院の業務全体を振り返る事ができました。まずは感染防止対策全体の質の向上を図らなければなりません。物資が不足する中で通常業務を維持する事で、これまでの災害対策とは違った視点でも、事業継続性を確保するためより実践的な対策が必要な事が分かりました。同時に、無駄を省き更なる効率化を進め、病院全体の業務改善に繋げる事ができればと考えています。実際、種々の対応は従来にはないスピードで進み、危機に際して職員も一丸となって協力してくれています。

コロナ後の新たな時代に向けて、これからの世界ではこれまでの100年の変化が10年で起こりうるとも言われています。私たちは激動の時代に直面する事になります。5G、8K、AI等の活用で医療はどのように変わるのでしょうか。地域医療構想も従来のどちらかと言うと病床削減の考え方に加えて、感染症や災害への対応まで含めた視点も必要になるでしょう。一方で経済の先行きによって、社会保障制度の在り方の議論も急速に進むと考えられます。身近な所では、会議等のオンライン化、対面での説明等の要件の見直し、ペーパーレス化や諸手続きの簡略化等、人手と時間を有効に使える改革に期待しています。

この度の危機を乗り越え、より良い未来に向かうことができればと願います。



病院スタッフコーナー

寄り添う支援をめざして



医療法人新生会
いしい記念病院
精神保健福祉士

松重 直弘

当院は、内科の石井病院と、精神科の岩国新生病院が移転統合した、精神病床147床と内科の療養病床60床を有する病院です。開設20年を迎えた今年、新たに地域医療連携室を設置し、さらなる地域の医療・介護の連携と切れ目ない支援を目指しています。

私は、入職19年目で、現在は認知症疾患医療センターの相談員として、BPSD（行動・心理症状）がある方や鑑別診断の受診対応、相談業務を行っています。

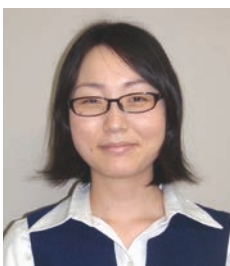
ここ数年、ご自身が自分は認知症ではないかと心配して受診を希望される方や、道交法の改正に伴う免許更新の診断書作成のために来院される方など、自らの意志で受診するケースが増えています。広く認知症の理解を深めるための普及啓発が進み、早期受診の重要性が浸透してきている様に感じます。

一方で、ご家族が受診に結びつけたくても、ご本人の拒否によりできないという相談も多く受けます。ある調査では、「ご家族が認知症の疑いを持ってから、医療受診まで平均1年2ヶ月、診断を受けて介護保険のサービスを利用するまで平均1年5ヶ月かかる」という報告が出ています。ご家族はこの期間、様々な不安や問題を抱えておられると想像できる為、連絡を頂いた際には、ご家族の気持ちに寄り添いながら受療援助を行う事を心掛けています。

また、診断後もご本人・ご家族の不安の軽減や、経過と共に生じる問題をくみ取り、次の支援に繋げることも、専門機関として重要な役割の一つと考えています。

そしてこれからも、専門的な視点と、ご本人・ご家族に寄り添う姿勢を大切に、認知症の人が暮らしやすい地域づくりに向け、専門職として日々研鑽し、能力の向上に励んでいきたいと思っています。

選んでいただける健診センターに



医療法人樹一会
山口病院
事務員

岡村 瞳

山口病院は、昭和21年（1946年）に初代院長山一が、山口市駅通りに山口外科医院を開設して以来、令和2年6月10日で74周年を迎えました。地域の皆様の「かかりつけ病院」として、療養病床（79床）、総合健診センター、サービス付き高齢者向け住宅、通所リハビリテーション、デイサービスなどを通じて、地域の医療、介護に貢献できるよう、職員一同日々努力をしています。

私の所属する総合健診センターでは、今年4月に完成した増築部に人間ドック専用フロアができ、これまで以上に落ち着いた雰囲気の中で、健診を受けていただけるようになりました。同じく移転拡充した内視鏡室は、内視鏡画面を見やすくするブルーライト照明が導入され、また、患者さんとスタッフの動線を分けた働きやすい設計になっています。マンモグラフィー室と婦人科検査室が近くにあり、女性専用待合スペースがで

きたので、女性も不安なく検査を受けていただけるようになりました。受診者様からは「ホテルみたいに綺麗になって、検査もスムーズで気持ちがいいね」と早速嬉しいご感想をいただいております。内部面でも、端末を各所に配置して情報処理・共有しやすい設計にかわって、受診者様のニーズへも幅広くお答えできるようになりました。

新しくなった建物や検査機器に負けないよう、私たちスタッフも検査や病気に関する知識をアップデートし、おもてなしの心を大切にして日々の業務にあたりたいと考えています。

諸会議報告

令和2年度 第1回理事会

日 時 令和2年5月20日（水）15:30～16:40

開催場所 山口グランドホテル

【議事次第】

1. 令和2年度定時総会提出議案について
・令和元年度事業報告書及び収支決算書について

【承認事項】

1. 令和2年度医療懇話会の開催について
2. その他

令和2年度 第1回情報管理委員会

日 時 令和2年6月8日（月）～15日（月）

※メールによる書面開催

【協議事項】

1. 7月号の発行について
2. 10月号の発行準備について
3. その他

トピックスコーナー

A I 問診システムの県内初導入事例について



医療法人神徳会
三田尻病院
看護部長

種田 嘉子

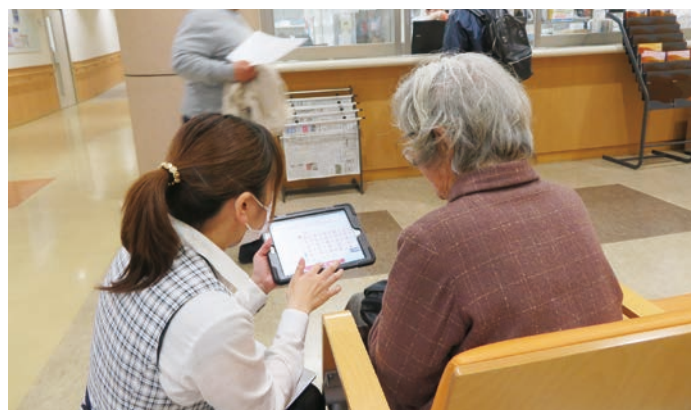
2020年度の診療報酬改定では、医療従事者負担軽減、医師の働き方改革推進が重点課題とされました。本院では患者様の利便性向上と共に、働き方改革の一環として本年、4月よりタブレット端末を用いた「A I 問診U b i e」を導入しました。

導入前は、受付で患者様に問診票記入を依頼し、それを元に看護師が予診を取りP Cに入力していました。長い待ち時間に苦痛を訴える患者様の対応にさらに時間を取られるなど悪循環が生じておりました。

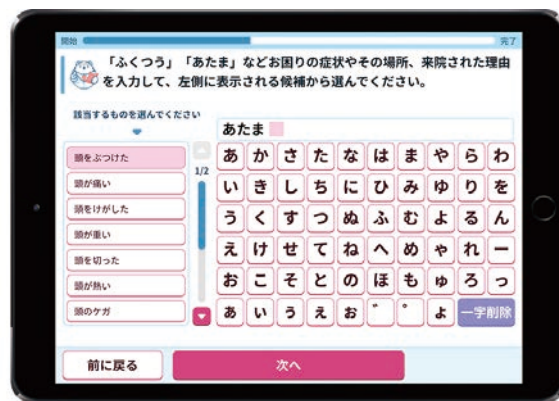
A I 問診導入後は、受付で患者様にタブレットを渡し患者様自身が打ち込むだけで、内容を医療用語に変換、カルテコメント案が作成され、問診精度が高まり記録時間を短縮することが可能になりました。それにより各担当者が本来すべき業務に集中できる環境を構築し、現場の生産性が向上。そこから医療の質向上につながれば患者様にとっては大きなメリットを生むことができると考えています。

導入後、副次的な効果もありました。COVID-19トリアージシステムがリリースされ、COVID-19該当症状がある場合、受付画面に注意喚起がされるようになりました。リリース当初は戸惑いましたが、感染リスクの低減や対応スタッフの負担軽減を図るなど、感染対策として患者様・医療者を守るアイテムになっています。

まだまだ有効活用出来ていない現状があるとは考えていますが、引き続き業務改善を行い、医療・看護の質向上に努めたいと思っています。



受付での案内のようす



A I 問診U b i e 画面

お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

山口県病院協会より推薦した6名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により、令和2年度山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

井原 京子	阿知須共立病院	三輪 美智子	関門医療センター
岩重 由美	山口県立こころの医療センター	山本 美佐子	小郡第一総合病院
木原 雅子	山口県立総合医療センター	渡邊 明子	千鳥ヶ丘病院

（氏名の50音順にて表記）

会員等の異動

会員の変更	変更後	変更前
・周南病院	理事長 大庭 幸生	理事長 沼田 光生
・徳山医師会病院	病院長 山本 憲男	病院長 森松 光紀
・豊関会記念病院	病院長 中村 哲朗	理事長 諸富 夏子
法人名の変更		
・豊関会記念病院	医療法人茜会	医療法人社団豊関会

会員等の退会

- ・俵山病院
- ・周防大島町立橘病院
- ・瀬戸病院

令和2年国勢調査への協力依頼について

山口県統計分析課からのお知らせです。

本年10月1日に、国勢調査が全国で一斉に行われます。国の最も重要な統計調査で、国内に居住するすべての人及び世帯が対象です。

調査への回答は調査票への記入のほか、パソコンやタブレット、スマートフォンからでも可能です。ご協力よろしくお願いします。



病院協会の主な行事予定

- 9月3日 初級職員研修会（会場：山口県総合保健会館）
- 9月25日 栄養関係職員医療安全対策研修会（会場：山口県総合保健会館）

編集後記

◆令和2年7月号をお送りします。新型コロナウイルス感染症が世界中で大混乱に陥れています。このような新しい感染症の危機を誰もが予測できなかったと言うことですし甘く見ていました◆国は4月7日に全国緊急事態宣言を発令し、人との接触を極力抑える市民生活の自粛を求めました。結果感染者は押さえられ5月25日に宣言は解除されました。山口県でも37人の感染者が出ましたが、幸い死亡者は無く入院中は1名です◆海外メディアは、日本の新型コロナウイルス対策の「成功」を、驚きを持って伝えています。しかし日本の対策が本当に成功したのでしょうか。日本だけでなく東アジアの国々では感染者数や死者数が欧米に比べて非常に低いレベルに留まっていることは世界の謎と言われています。BCGワクチン接種歴、ウイルスの変異や人種間での遺伝学的な相違なども考えられています。謎の解明が待たれます◆医療機関にとって、受診抑制・投薬の長期化・健診などの抑制でこの期間の診療収入は大幅な減収で、長期化すれば医療機関が経営的に破綻してしまう可能性も有ります◆最悪な春でした。最悪の年とならないよう早い収束を祈ります。

“どこからどう見ても どこをどう切っても これはきっと最悪な春

最悪な この春をずっと 僕は 僕らは 忘れないだろう”

森山直太郎さんの「最悪な春」聴いてみて下さい。

（吉岡春紀）